

-受付番号	2024-17		
許可番号	大歯医倫 第 111342 号		
研究課題名	要介護高齢者における固定性インプラントを活用したインプラントクラスプ義歯の有用性の検討		
研究責任者	黒崎 陽子	申請者	黒崎 陽子
研究終了日	2030 年 3 月 31 日		
所属	欠損歯列補綴咬合学講座	所属	欠損歯列補綴咬合学講座
職名	講師	職名	講師

申請の概要

要介護状態に備えて、固定性インプラント上部構造を撤去し、可撤性装置であるインプラントオーバーデンチャー（IOD）へ移行する概念が提唱されてきた。しかし、可撤性装置への移行のタイミングは歯科医師にも判断が難しく、その戦略的な補綴介入のタイミングの確立には未だ至っていない。一方で、現実として口腔内に口腔インプラントを有する要介護高齢者は増加しており、残存天然歯のトラブルにより新たな欠損補綴治療が必要な患者にどのように機能回復を図るかは直近の課題であった。訪問歯科医師が IOD への移行を行うことも不可能ではないが、システム依存的な口腔インプラント治療を幅広くカバーすることは非現実的と言わざるを得ない。

そこで本研究では、多くの訪問歯科医師が製作可能と思われるインプラントクラスプ義歯に着目し、インプラントクラスプ義歯と IOD を有する要介護高齢者を対象とした横断調査を実施し、咀嚼機能、栄養摂取状況、口腔清掃状況、口腔内のトラブルや介助者の介護負担感に、インプラントクラスプ義歯と IOD でどのような差があるかを検討することを目的とする。本研究によりインプラントクラスプ義歯の有用性が明らかになれば、高齢者の欠損補綴に対する有力な治療オプションを提供することに繋がるものと期待される。